



天瀬

Amagase



天瀬町の復興を信じて

7月22日、豪雨被害を受けた天瀬町に、大鶴・夜明地区の公民館が主催する青少年学習教室「大明チャレンジ教室」の子供たちから、気持ちを込めた寄せ書きをいただいた。両地区は、3年前の平成29年九州北部豪雨で被災しており、いただいた寄せ書きには、被災した子供たちの素直な気持ちと、復興を信じる力強い言葉が書かれている。



子供たちの夏の思い出

7月17日、天瀬町女子畑のさかえ保育園で、夏まつりが行われた。毎年、卒園児や保護者を招待して行われていたが、今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、園児と職員のみで行った。園児たちは、的当てやくじ引き、ヨーヨーつりなど、夏まつりならではのゲームを楽しみ、夏の思い出を作ることができた。

大山

Oyama



今年も大きく育ちますように

7月19日、小五馬集落センターで清流長寿老人会と、小五馬地区の壮年会の総勢19人による「ひまわりの種まき」が行われた。小五馬地区では休耕地の有効活用を目的に、毎年12,000株のひまわりを植えている。8月上旬には育った苗を広さ約35アールの休耕地に定植。ひまわりの花が見頃を迎えるのは10月頃の見込み。



短歌教室が再開！

新型コロナウイルス感染症の影響によって休止していた大山公民館の自主学習教室が再開された。6月24日、短歌教室では、事前に受講生たちから募った短歌を配布し、より良い作品にするにはどうしたら良いのか全員で時間をかけて批評し合っていた。様々な意見が活発に飛び交った結果、洗練された作品に整えられていった。



日田

Hita

TOWN TOPICS IN HITA

まちの話題



被災現場を大臣が視察

7月16日、武田防災担当大臣及び今井大臣政務官が、今回の災害で被害の大きかった天瀬町の視察を行った。また、県知事と市長が国へ要望書の提出を行うと、大臣は「新型コロナウイルス感染症で苦しんでいた最中、被災された皆様には本当にお見舞い申し上げます。国としても精一杯尽力します」と今後の意気込みを語ってくれた。



風鈴の音に涼を感じる

7月1日、日田駅前広場に、駅前の活性化を目指して駅前通り商店街振興組合の皆さんが風鈴の飾り付けを行った。日田市は、全国で最も暑い日を記録するなど、全国的にも「暑いまち」として知られている。涼を感じる風鈴の音色が日田駅前広場を訪れた人々を癒していた。風鈴は8月末まで飾られた。



被災地域で意見交換会を開催

今回の豪雨で被害を受けた地域で市と被災者との意見交換会が、中津江地区では7月23日に、上津江・天瀬地区では7月26日に開催された。意見交換会では市から被害状況や支援内容について説明したあと、被災者からは避難時の情報伝達や生活再建に向けた支援について質問が出たほか、幹線道路の早期復旧を願う意見が出た。



花火で笑顔に

新型コロナウイルス感染症の早期終息を願い、三隈川で花火が打ち上げられた。「日田市民が花火を見上げて楽しみ“笑顔”になってもらえるように」と復興と悪疫退散への思いを込めて打ち上げられた。1回の打上時間は5分程度であったが、8月29日までの期間中、色鮮やかな花火が日田の夜空を彩った。